



奉祝 天皇陛下御即位三十年

氷川神社
社報 第九号

武蔵一宮



奉祝 天皇陛下御即位三十年(五)

四方拝と勅祭社

当社報五号より「奉祝御即位三十年」として当社への御親拝、皇室に伝わる宮中祭祀や皇位継承の証である三種の神器の御紹介などを行って参りました。

宮中では平成三十一年の恒例祭も歳旦祭に始まりましたが、これに先立ち四方拝が執り行われます。四方拝とは正月元旦、四方の神祇、先霊を拝する式で宮廷における初見は『年中行事秘抄』に「元日四



幣帛と柳筐

方拝事、寛平二年正月朔四方拝云々、向乾拝后土及五星(見御記)」とあるので平安時代にはすでに行われていた事がわかります。

明治五年から新制の四方拝により賢所前庭にて御拝、その順は皇大神宮(伊勢の神宮の内宮)、豊受大神宮(同、外宮)、天神地祇、神武天皇山陵、孝明天皇山陵、諸社(氷川、賀茂上下、石清水、熱田、鹿島、香取)とされました。明治の御代以降、当社は四方拝の栄に浴するとともに勅祭社に列せられました。



例祭で使用される唐櫃

勅祭社とは天皇の思召により、特に勅使を差遣して、祭祀・奉幣をせしめられる事を勅祭、これを受ける神社を勅祭社といえます。現在、伊勢の神宮を別格とすると全国に十六社あります。勅祭となった当初、勅使と共に差遣され奉納された走馬は、明治七年に東游の舞に代わり、現在に続いています。

例祭では勅使は随員を従え、唐櫃に納めた幣帛を御神前に供え、祭文を奏上されます。幣帛とは、広義には神に奉るものの総称、狭義には神饌を除いた奉り物をいい、



東 游

例祭の幣帛の内容は五色絶いしごのやちあはという絹織物や木綿、麻等となっています。宮内庁ホームページで御紹介の通り、養蚕の文化は宮中でも行われており、皇后陛下は、昭憲皇太后が明治四年にお始めになった御養蚕を香淳皇后からお引継ぎになり、御養蚕の期間中、皇居内の紅葉山御養蚕所で、御公務の合間や休日、作業をなさっています。長年飼育されて来た日本在来品種「小石丸」は、正倉院宝物の絹織物の復元に最もふさわしい糸である事が確認され、この品種を増産し、正倉院にお贈りになり、貴重な古代理製の絶や羅、綾、錦等の復元がなされました。

園遊会や外国の賓客の接遇等、華やかな対外的な事以外の宮中祭祀をはじめとした皇室の御事は、一般に報道される機会が少なく、また私たちの日々の生活と直接関わりがないように思えますが、悠久の歴史を今なお伝える我が国の根本です。両陛下のお務めや皇室の文化を知り感謝申し上げる事も、今上陛下の御即位三十年を奉祝する事に繋がるものと存じます。

御代替りの儀式

平成三十一年四月三十日を以て、天皇陛下が皇太子殿下に天皇の御位をお譲りになられる事となりました。これを「譲位」といいます。これは、文化十四年（一八一七年）に光格天皇が仁孝天皇に譲位されて以来、約二百年ぶりの事となります。新しい天皇の御代になると元号が改められます。これを改元といい、かつては御代替り以外にも様々な機会に改元が行われましたが、明治以降、皇位継承があった時に限り行われるようになりました。よって元号は、ときの天皇の御代を表象するものといえます。元号は、良い意味を持つ二字を用いる事となっており、国民の理想として相応しい字が充てられます。御代替りの儀式は様々にありますが、譲位、踐祚の式、即位礼、大嘗祭と分ける事が出来ます。本稿ではまず、譲位、踐祚の式について御紹介致します。（神社本庁『御代替りより抜粋』）



即位礼正殿の儀(平成2年11月12日)



即位後朝見の儀(平成元年1月9日)



剣璽等承継の儀(昭和64年1月7日)

画像提供：宮内庁

退位礼正殿の儀 四月三十日

天皇陛下の御譲位に際し、それを広く国民に明らかにするとともに、陛下が御譲位前に、最後に国民の代表に会われる儀式が執り行われます。天皇陛下の御譲位の日となる平成三十一年四月三十日に、国の儀式として宮中において行われます。

剣璽等承継の儀 五月一日

天皇陛下が御位につかれる事を「踐祚」といいます。皇位は一日たりとも空白があつてはなりません。皇位につかれた陛下は、「三種の神器」をはじめとした皇室に由緒ある品々や天皇陛下の印である「御璽」、日本国の印である「国璽」を継承されます。三種の神器とは、歴代天皇に皇位のしるしとして継承されてきた八咫鏡・天叢雲劍(草薙劍)・八坂瓊曲玉の事です。

賢所の儀・皇靈殿神殿に奉告の儀 五月一日～三日

「剣璽」が承継されるのと同じくして、宮中三殿では新帝が御位につかれた旨を天照大御神(賢所)、歴代天皇と皇族の御霊(皇靈殿)、天神地祇(神殿)に奉告されます。

即位後朝見の儀

その後、皇居では「即位後朝見の儀」が執り行われ、陛下は内閣総理大臣ほか三権の長、地方自治体の代表などを御前に召されて皇位につかれた旨を宣言されます。

祭事曆

当社では毎日の日供祭の他、例祭をはじめ年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

一月

- 一日 歳旦祭
- 二日 日供始祭
- 三日 元始祭
- 七日 昭和天皇祭遙拜式
- 十五日 献詠祭(兼題 光) 併成人祭

二月

- 一日 月次祭
- 二日 初午祭(稻荷神社)
- 三日 節分祭
- 七日 的 神事
- 十一日 紀元祭
- 十五日 献詠祭(兼題 立春)
- 十七日 祈年祭

三月

- 一日 月次祭 併天皇陛下御即位 三十年奉祝祭
- 十五日 献詠祭(桃の花) 併 郷神楽
- 二十三日 春分祭



日供始祭



歳旦祭



的 神事



節分祭 鳴弦の儀



郷神楽祭



祈年祭

社頭往来

正月三が日

平成三十一年の正月は風も穏やかな陽気に恵まれました。一日は約百万人、二日は約七十万、三日は約五十万人で、三日の合計は約二百二十万人でした。本年も一日には大宮鳶職組合によるはしご乗り、三日には大宮能楽研究会による謡初めが行われました。また神橋手前には大型ビジョンが設置され年中行事の映像などが映されました。



氏子総代初祈祷祭



二月十日午前十一時、氏子総

代・評議員約八十名参列のもと新年の初祈祷祭を執り行い、皆様の無病息災と御活躍を祈願致しました。

クランク記念国際高等学校職場体験

一月十六日から十八日までクランク記念国際高等学校の女子生徒四名の職場体験を受け入れ、神札所にてお神札やお守りの授与を御奉仕頂きました。



防災訓練

一月二十二日午前九時より大宮消防署の指導のもと、大宮消



防団や氏子の皆様と消火訓練や地震体験等の防災訓練を行いました。一月二十六日は文化財防火デーにあたります。文化財防火デーの制定は、昭和二十四年一月二十六日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県斑鳩町）の金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいています。

絵画奉納

一月二十四日午後一時、日本画家山本丘人画伯の絵画『雛図』を奉納頂きました熊倉英夫様参列のもと奉納奉告式を執り行いました。



婚礼展示会

一月二十七日午後一時より四時まで呉竹荘において婚礼展示会が開催され、三十組の方々の御来場を頂きました。



節分撒豆式

二月三日、舞殿にて特別年男年女により撒豆式が行われました。十二時半の式では古くから当社で豆撒きを行う如月会、二時の式では落語家の柳家小袁治師匠、陸奥部屋力士、衆議院議員牧原秀樹様、総代会長大野隆司様始め責任役員、日本郵船氷川丸船長金谷範夫様、武蔵野銀行頭取加藤喜久雄様他、申し込みを頂いた年男年女、三時の式では氏子青年会により撒豆式を行いました。日曜日であった事もあり約一万五千人の参拝者で賑わいました。



大宮二十景入賞作品展示

二月四日から十八日まで西側待合所にて大宮二十景コンクール入賞作品二十四点を展示致しました。



大宮アルディージャ必勝祈願

二月十五日午前九時半、大宮アルディージャの必勝祈願を行いました。森正志社長、高木琢也監督が玉串を捧げ選手と共に今期の必勝を祈願しました。



写真提供：大宮アルディージャ



大宮アルティージャ
サポーター必勝祈願

二月二十四日午前九時、J2
リーグ開幕戦にあたり、大宮アル
ティージャサポーター約百名
が来社し必勝祈願致しました。



新陰流正伝上泉会奉納演武



三月三日午後一時半、新陰流
正伝上泉会会長島正紀氏他二十
名により形の奉納がございまし
た。

埼玉県煎茶道連盟春の茶会



紅茶席 鈴木典子インストラクター
石井宗恵副会長

三月九日午前十時、勅使館及
び呉竹荘にて埼玉県煎茶道連盟
の春の茶会が行われ、来賓とし
てさいたま市長清水勇人様等が
お越しになりました。

福神講祈願祭

三月十日午前十一時、大湯祭
に出店する熊手商を中心とする
福神講の祈願祭を執り行いまし
た。

東日本大震災復興祈願雅楽演奏



三月十一日、復興祈願雅楽演
奏を行いました。午後二時

四十六分より一分間の黙禱の
後、平調音取、越殿楽、陪臚、
浦安の舞を奉奏致しました。

参道土壌改良植栽工事

三月十一日から十五日にかけ
て参道の土壌改良工事と植栽を
行いました。約8トンの腐葉土
とイロハモミジ、ハウチワカエ
デ、ヤマモミジ、十月桜、ヤマ
ツツジ、ミツバツツジ、ホンキ
リシマツツジ、久留米ツツジ等
約五十本の植栽を行いました。



氷川神社摂末社の巡拝（その三）

境内にはさまざまな神様が祀られています。十三社ある境内社は摂末社とよばれますが、摂社とは旧官国幣社において境内外に祀られている神社の中で特に本社の祭神と由緒の深い神社を指します。その他の境内外に祀られている神社は末社といえます。当社のおみくじの文末には信仰すべき摂末社や御祭神の記載があります。御加護を頂けるよう御参拝下さい。



社殿は寛文7年3月に造営された元の女體宮の社殿を移築したものです

御祭神

大己貴命 少彦名命

おみくじの表記

御嶽神社、
淡島の神、
大己貴命、
少彦名命、
大国の神、
えびすの神、
大国主の神、

御嶽神社 山岳信仰の名残を伝える

御嶽神社は御本社を東京都西多摩郡奥多摩町の御嶽山上に鎮座し、日本武尊を導いたと伝えられ、御祭神大己貴命・少彦名命は共に国造りをした神として伝えられます。御本社は中世には御嶽大権現として仏徒修験者の入山者も多く、火災・盗難除けの信仰が流布し、江戸時代においても幕府から厚く尊信されました。おみくじにある「えびすの神」は少彦名命、「淡島の神」は大己貴命、「淡島の神」は「古事記」にて国造りを終えた少彦名命が淡島から常世の国に渡った事から少彦名命の事とされています。



御祭神

菅原道真公

おみくじの表記

天満神社

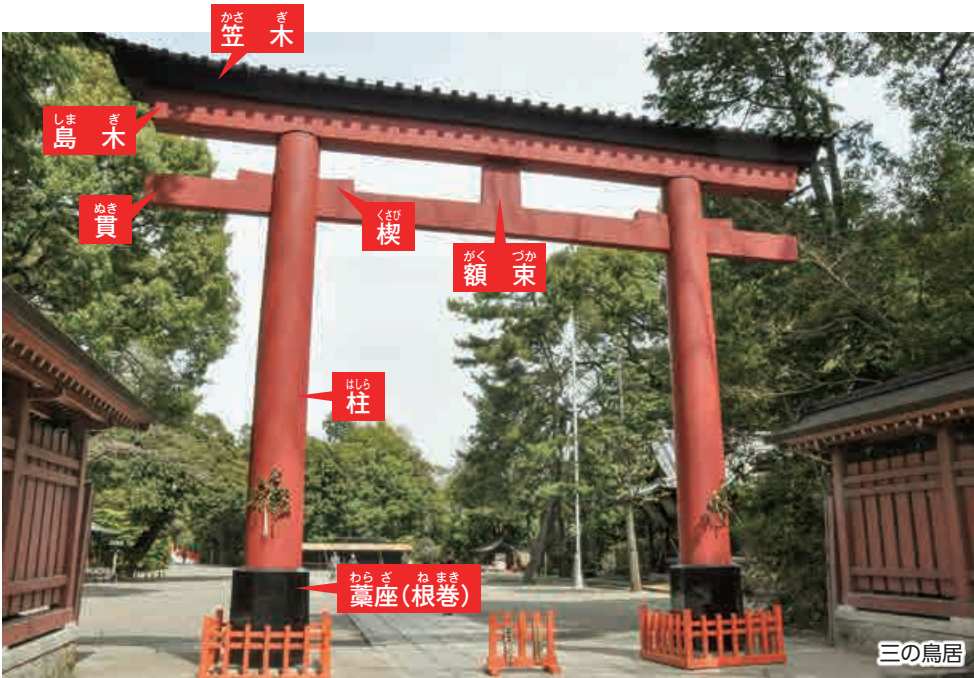


天満神社前で果実をとるオナガ

天満神社 雷神信仰と融合した学問の神

御祭神、菅原道真公は学問の神として信仰されており、神社本庁に届け出のある菅公など関連の御祭神を祀る神社は全国で一万社を超え、神紋は道真公が好んだ事から梅が用いられ、御神使は牛とされており、道真公は讒言によって太宰府で悲運の最期を遂げましたが、道真公の死後、都では雷禍に見舞われ、道真公を無実の罪に陥れた者たちが怪死する事件が起きたため、人々はこれを道真公が御霊となったとして、北野天満宮、太宰府天満宮を創建して祀るようになったと言われます。氷川神社の境内社である天満神社は二の鳥居近くの飛び地となっており、その緑は様々な生き物を育む場所となっています。

神社豆知識 鳥居 ①



鳥居とは

私たちが神社にお参りをするとき、まず鳥居を目にします。鳥居は神社を表示し、また神社の神聖さを象徴する建造物ともいえます。鳥居は神社の内と外を分ける境に立てられ、鳥居の内は神様がお鎮まりになる御神域として尊ばれます。また、特定の神殿(本殿)を持たず、山など自然物を御神体、または依代としてお祀りしている神社の中には、その前に鳥居が立てられ、神様の御存在を現すものとして重視されています。鳥居の起源については、天照大御神が天の岩屋にお隠れになった際に、八百万の神々が鶏を鳴かせましたが、このとき鶏が止まった木を鳥居の起源であるとする説や、外国からの渡来説などがあります。鳥居は、その材質・構造も多種多様で、それぞれの神社により形態が異なります。一説には六十数種類の形態があるともいわれており、代表的なものとしては、鳥居上部の横柱が一直線になっている神明鳥居と、この横柱の両端が上向きに反っている明神鳥居があります。このほか、形態では明神鳥居の横柱上部に合掌形の破風のついた山王鳥居や、また朱塗りの稲荷鳥居など特徴的なものがあります。起源や形態などさまざまでありますが、鳥居を見ると神聖さを感じるのには、我々日本人の共通した考え方ではないかと思えます。

神社新報社『神道いろは』より

神主さんと神社を学ぼう！

三月三十日、午前九時半から午後四時まで境内にて埼玉県神社庁主催の教化事業「神主さんと神社を学ぼう」が行われました。当社神職による境内案内の他、教化委員や神道婦人会、神道青年会の県内神職約三十名が案内や説明を担当し、氏神検索・神社相談コーナー、県内約二百社の御朱印展(三月一日～四月七日)、神社職業体験ジンジャニア、少彦命名の神話カレンダー原画展、神社検定PRコーナー、里神楽「ときがわ町稻荷神社ささら狐つり」、神話講談、雅楽・神楽舞奉奏、共催のクラブツーリズムによる神道講座「神道入門講座(埼玉県神社庁武田淳事務局長)」、「御代替りに際して(扶桑社『皇室』伊豆野誠編集長)」、「日本神話入門(渡邊卓氏)」などが行われました。



御朱印帳



神社職業体験ジンジャニア



ささら狐つり



ささら狐つり



神楽舞



氷川マルシェ ～大宮グルメ～

氷川マルシェ
さんきゅう参道

同時開催



神道講座 御代替りに際して



3月1日、15日

敬神婦人会湯茶接遇活動



一月の奉納献華

古流松藤会	岩波理豊	桂古流	高橋典花
池坊	草谷智花	草月流	竹下尚峰
桂古流	小林華侑	正風流一光会	桐生一光
古流松藤会	川嶋理智	春草流	栗原春彩
草月流	沖山草俊		

参道の清掃活動を頂きました皆様の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。参道清掃のお申し出、お問い合わせは社務所までお願い致します。
(五十音順、敬称略)

- ・ I love Saitama プロデュース
- ・ 阿含宗埼玉道場
- ・ 大宮明るい社会づくりの会
- ・ ポーイスカウトさいたま一団
- ・ みずほ証券株式会社

参道清掃奉仕御礼 (1/1 ~ 3/31)



二月の奉納献華

古流松藤会	岩波理豊	桂古流	小林華侑
池坊	草谷智花	古流松藤会	川嶋理智
草月流	沖山草俊	桂古流	高橋典花
		春草流	栗原春彩



明治天皇御親祭百五十年大祭の記念事業である、廻廊石置化工事の第二期工事が二月十二日より開始され三月末日に完了致しました。

西側廻廊石置化工事



三月の奉納献華

古流松藤会	岩波理豊	草月流	竹下尚峰
池坊	草谷智花	桂古流	桐生一光
草月流	沖山草俊	正風流一光会	栗原春彩
桂古流	小林華侑	春草流	
古流松藤会	川嶋理智		
桂古流	高橋典花		

<p>三月 三日 新陰流正伝上泉会</p> <p>三日 阿含宗</p> <p>六日 責任役員会、敬神講社理事會、氏子総代会並評議員會</p> <p>九日 香椎宮 祭典委員会</p> <p>十七日 武蔵菊花会</p> <p>十九日 弓道大会運営委員会</p> <p>二十九日 院友神職役員会</p> <p>三十日 水川マルシエ</p> <p>三十日 大宮高島屋</p>	<p>二月 七日 靖國神社社務実習生</p> <p>十一日 鎮花祭説明会</p> <p>十三日 みずほ證券</p> <p>十四日 高鼻二丁目友の会</p> <p>二十日 愛知県神社庁豊田支部松平分会</p> <p>二十三日 谷島国高</p>	<p>一月 一日 大宮鳶職組合</p> <p>三日 大宮能楽研究会</p> <p>六日 衆議院議員 枝野幸男</p> <p>八日 靖國神社宮司</p> <p>十日 氏子総代評議員互礼会</p> <p>十四日 さいたま市長 清水勇人</p> <p>十八日 埼玉県神社庁</p> <p>十九日 神明水川神社(東京都)</p> <p>二十日 多摩川浅間神社(東京都)</p> <p>二十日 高円寺水川神社(東京都)</p> <p>二十一日 解脱会埼玉教区女性部</p> <p>二十四日 敬神婦人会</p> <p>二十六日 熊倉英夫</p> <p>二十八日 はたるの会</p> <p>三十日 立正佼成会大宮教会</p> <p>三十一日 古絵葉書集会議</p>	<p>正式参拝及び諸会議 (敬称略)</p>
---	--	---	-----------------------------------

